

郷土館発

子ども達と一緒に、郷土館を訪ねてみませんか

二月中旬、田口小学校三年生の児童が「昔のくらし」の学習で郷土館を訪れました。

好奇心一杯に輝く目・目・目。「昔の電話はありますか。ダイヤルのない電話で、どうやって

話ができたのですか。」

「蚊帳(かや)は何処にありますか。何に使ったんですか。」

「洗濯板は何処ですか。」

「冷蔵庫は……。」

「昔の家の戸は、大きい戸に小さい戸がくっついているけど、どうしてですか。」

「遊び道具は……。」

「自分の目で「昔のくらし」を探し、自分の頭と心で「昔のくらし」を考え感じる小さな歴史学者の誕生です。」

子ども達は三年生で初めて歴史の学習を始めます。

祖父母が子どもであった頃の時代から学びます。

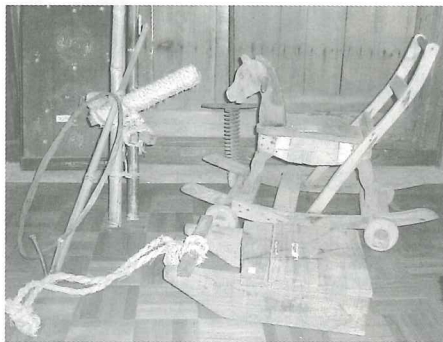
意外と現代に近い時代を歴史学習の入口とするわけは、歴史の事実を、身近で親しい人に確かめることができる時代だからだといわれています。

子ども達が昔の物(事象)を見つけ、その物と関わって生活していた人々の暮らし向きに思いを寄せ、当時の人々の心や知恵に共感する学習です。

子ども達が、おじいさん、おばあさん、お父さん、お母さんと一緒に、背負板の背負い方、縄の結び方、子どもの頃の遊び方、洗濯板の使い方などを学び、昔の人々の生きる力に共感できたら素晴らしい学習になると思います。

小さな歴史学者と郷土館を訪ねてみませんか。

(奥三河郷土館 加藤 紘市)



遊び道具



洗濯板とたらい



入口(大戸)



冷蔵庫



かまど